

情報通信審議会 情報通信技術分科会

電波利用環境委員会 CISPR A 作業班(第 26 回)

議事要旨

1 開催日時：令和 8 年 7 月 31 日（金）14:30～16:45

2 開催場所：Web 会議開催 (Cisco Webex)

3 出席者（敬称略）

【構成員】石上主任（東北学院大学）、田島主任代理（NTT-AT）、雨宮構成員（VCCI）、安藤構成員（JEMA）、伊藤構成員（NHK）、井山構成員（NTT ドコモ）、曾根構成員（東北大学）、チャカロタイ構成員（NICT）、登坂構成員（JET）、中嶋構成員（JQA）、永野構成員（ARIB）、中村構成員（JBMIA）、原田構成員（VCCI）、藤井構成員（NICT）、三塚構成員（TELEC）

【関係者】長部関係者（VCCI）、島先関係者（VCCI）

【事務局】総務省：加藤電波監視官、内田官

4 議事概要

（１） CISPR A 小委員会 WG 等 国際会議 審議結果について

WG1 の審議結果について、石上主任より資料 26-1-1 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に、WG2 の審議結果について、石上主任より資料 26-1-2 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に、JWG9 の審議結果について、田島主任代理より資料 26-1-3 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に、AHG7 の審議結果について、島先関係者より資料 26-1-4 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

田島主任代理：CMF-SVSWR 測定について、各国から意見が提出されているのか。

島先構成員：CMF-SVSWR 測定は、クワイエットゾーン（QZ）に対して測定を行い、6dB の要件を満たさなければならないほか、QZ に関する要件もあり、多くの委員から意見が提出されている。

次に、AHG8 の審議結果について、島先関係者より資料 26-1-5 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

田島主任代理：CISPR16-2-3 の改定審議において、h1 及び h2 の議論状況如何。

島先構成員：CISPR32 における放射妨害波測定での受信アンテナの昇降は、1 m から 4 m の範囲で行う。CISPR16-2-3 では、周波数範囲 18～40GHz の測定仕様を審議しているところ、受信アンテナをどこまで上げるのかという議論になった。h2 の定義については、「EUT の上端又は h1+0.5m のいずれか高い方」となっている。

中村構成員：1～40GHz の測定仕様を議論しているのか。

島先構成員：AHG8 では、18～40GHz の測定仕様を議論しているが、A/I JTF では、1～6 GHz の測定仕様も含めて検討している。

次に、A/I JAHG6 の審議結果について、長部関係者より資料 26-1-6 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

田島主任代理：VHF-LISN の導入経緯を追加するのは、CISPR のどの規格か。

島先構成員：CISPR TR 16-3 となる。

田島主任代理：サイトバリデーションに関する議論はあるか。

長部構成員：JAHG6 では、VHF-LISN を設置する高さが低い場合、サイトバリデーションを行う必要がないとしている。一方で、測定の不確かさについて、サイトアッテネーションを考慮すべきという意見もある。

(2) CISPR A 小委員会 ハンブルグ会議 対処方針(案)について

CISPR A 小委員会 ハンブルグ総会の対処方針案について、石上主任より、資料 26-2-1 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に WG1 の対処方針案について、石上主任より資料 26-2-2 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に WG2 の対処方針案について、田島主任代理より資料 26-2-3 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

長部構成員：9.1 項に「JAHG6」とあるが「JTF」に修正をお願いしたい。

島先構成員：6.1.2 項に「JAHG6」とあるが「JTF」に修正をお願いしたい。

田島主任代理：承知した。

次に JWG9 の対処方針案について、田島主任代理より資料 26-2-4 に基づき説明が行われた。特に質疑応答はなかった。

次に AHG7 の対処方針案について、島先関係者より資料 26-2-5 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

田島主任代理：7.1 項において、「現在、各手法において RRT を実施しており」とあるが、RRT のタスクフォースは実施されておらず、各国において実証実験を実施していると認識しているが、今後どのように RRT のタスクフォースが実施されるのか。

島先構成員：各国が RRT のデータを測定し、持ち寄って議論している状況。現在、DC 文書を取りまとめられるかが課題となっている。

次に AHG8 の対処方針案について、島先関係者より資料 26-2-6 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

石上主任：AHG8 は、オンライン会議に変更となったのか。

島先構成員：JAHG6 の日程と重複しており、コンビーナに開催時間を確認予定である。

田島主任代理：リバブレーションチャンバーの議論如何。

島先構成員：リバブレーションチャンバーについては、最大 40GHz までの使用が検討されている。

次に A/I JAG の対処方針案について、島先関係者より資料 26-2-7 に基づき説明が行われた。質疑応答は以下のとおり。

雨宮構成員：通信ポートの許容値導出の議論については、どこまで行われているのか。

島先構成員：コンビーナから具体的な指示を聞いていない。

次に A/I JAHG6 の対処方針案について、長部関係者より資料 26-2-8 に基づき説明が行われた。特に質疑応答は無かった。

(3) 電波利用環境委員会報告(案)について

石上主任より資料 26-3-1 及び資料 26-3-2 に基づき説明が行われ、承認された。特に質疑応答は無かった。

(4) CISPR A 小委員会 ハンブルク会議 参加者(案)について

参加者案について、石上主任より資料 26-4 に基づき説明が行われ、承認された。特に質疑応答は無かった。

(5) その他

資料 26-3-1、資料 26-3-2 及び資料 26-4 を、8 月 19 日(水)に開催される電波利用環境委員会(第 68 回)で報告する。

次回作業班については、事務局より別途連絡する。

以上